

飛翔

七六期だより

発行
東筑76期会
広報・会誌委員会
平成17年11月



七六期生「原風景」に寄せた

白石 純一郎



《略歴》
ラジオ東京 八幡 若松高校を経て、東筑高校に24年間在職。
秋女子短期大学 九州国際大学付属高校女子部勤務後 現在フリー。
進研模試問題作成などに関与。八幡西区在住。

十六、七が二度候かよ、
枯木に花が咲き候かよ

昭和四〇年代、大学紛争終焉後から経済大国へ加速する社会状況の中で、核家族は次第に個人化へと移行し、厳粛な死の想念や地獄絵も戯画化、漫画の姿に変わり果て、何やら、ものみな全てが希薄化し、「どうでもいいや」という『しらけ』世代の出現とマスメディアが喧伝した頃の、昭和五〇年。この春、入学したのが当番期の七六期生たちでした。

今は亡き村上修一校長や谷石信雄学年主任の温かい助言をいただきながら、私は彼らと三年間一緒に過ごしたので、その思い出にまつわる特異性も鮮明に蘇ります。

一言でいうと、修学旅行での上高地的明るさと黒四ダムの大スケール大きな学生群でした。

この七六期生独特の属性とはどのようなものだったか、もつすこし申しましよう。

勿論、失恋した秋、独り図書館の片隅で詩を読み、涙する生徒もいましたが、例えば、クラブ活動以外に友人同士でバンドやフォークグループを結成したり、日曜日には出身中学の運動場を借りての早朝野球大会などと、自主的に作ったグループの連帯の中で、「何のために勉強するのか」をはじめ「自立心」「自己同一性」とは何かという、思春期特有の心の葛藤を克服しようとしたのです。

もとより、この生徒たちは、辛い現実から逃避する遊びの連帯感には、強く自己規制していました。私などが各料の採点済みの答案を配り始めるより、

二〇〇五年 十一月

数の勝ち負けの比較から、「お前の記述はここがおかしい」といった教師まがいの解説までがとびかう雰囲気になり、クラスの平均点が低い程、それはまた再挑戦のための和気あいあいの決意交換の場になるのでした。

例えば、「孤独」をその属性とする青春にとって、自己を他人にさらすことによって自己を知るといふ生き方、言い換えれば、友人を通して自分の力で自分の若さを掴むのは、極めて厳しい生き方と申せましよう。

偏差値や進路適正検査といった冷静な客観的データに支配されない、自分の進路に対する決断、覚悟といった、青春の泡立つ心の働きがあったのです。

私は、他の期の生徒たちとの交流でも実感したことですが、特に、この七六期生の描いた軌跡の中に、東筑の「伝統」の姿を垣間見た思いがしています。

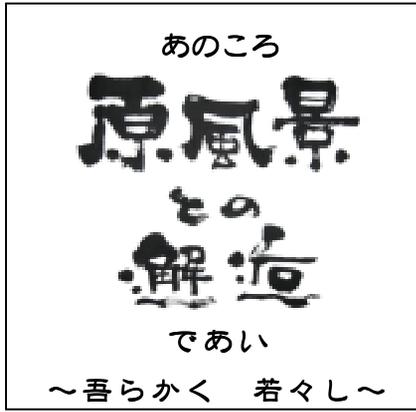
元来、伝統というものは、言葉で定義しても知らん顔をしていますし、平素は全く姿を現わしません。姿を現わすのは、東筑で学んだ個人が、生活上の絶対的な逆境に陥った時、初めて、心のなかに塵気楼のように現われ、生きる勇気のエネルギーに還元するのです。

現在、東筑で学ぶ生徒たちを取り巻く状況は、七六期生の頃とは大きく変わっています。

だが、東筑の「伝統」は、一滴の雨滴が集まる自然界の地下水のように流れ続けているのです。

どうかこの同窓会総会が、単なる懐旧談の場にならず、意識下に「伝統」を再確認し明日に生きる勇気に還元されるよう、東筑に長年お世話になった私は切望しています。

二〇〇六年 東筑会テーマ「あのころの思い出」



【題字】 江口香織(三の六) 書 (旧姓 光安)

このテーマの原案は、本年度総会の折、七六期の会合で出されたアイデアをもとに、恩師白石先生にアドバイスをいただいたながら、宮本(三の七)福山(三の一)西君ごともに作成しました。これは、東筑会の場を象徴的に表現したものです。その意味するところは……東筑会で出会う友や恩師の顔の向こうに、我々はきつと「原風景」(記憶の底にいつまでも残り、何らかの形でこだわり続ける風景)を確認しているはずですし、その出会いは「邂逅」(思いがけなく出会うこと)であるだけにドラマチックなものである、といったところなのです。



東筑高校で教員をしていますので、現在の母校について報告します。

我々が卒業してはや三十年、恩師の中には亡くなった方もおられ、音楽の原田テルミ先生が、非常勤講師をしていらつしやるのみで、体育の田代進先生のご子息が数々の先生をしています。



本館(玄関)



校舎・渡り廊下

東筑近況



生徒昇降口

校舎の方は、体育館と柔剣道場が新しくなっただけで、教室も職員室も昔のままです。
(職員室は、床が嵩張りのように音をたてます)
今年も、同窓生に見に来てもらいたいということで、総会の日の昼間に文化祭を行いました。
来年どうなるかはまだ決まっていますが、今年のやり方を踏襲するのではないかと思います。
「いつか機会に、たまには母校を見に来てください。」

東筑高等学校 宮本 明 (三の七)

